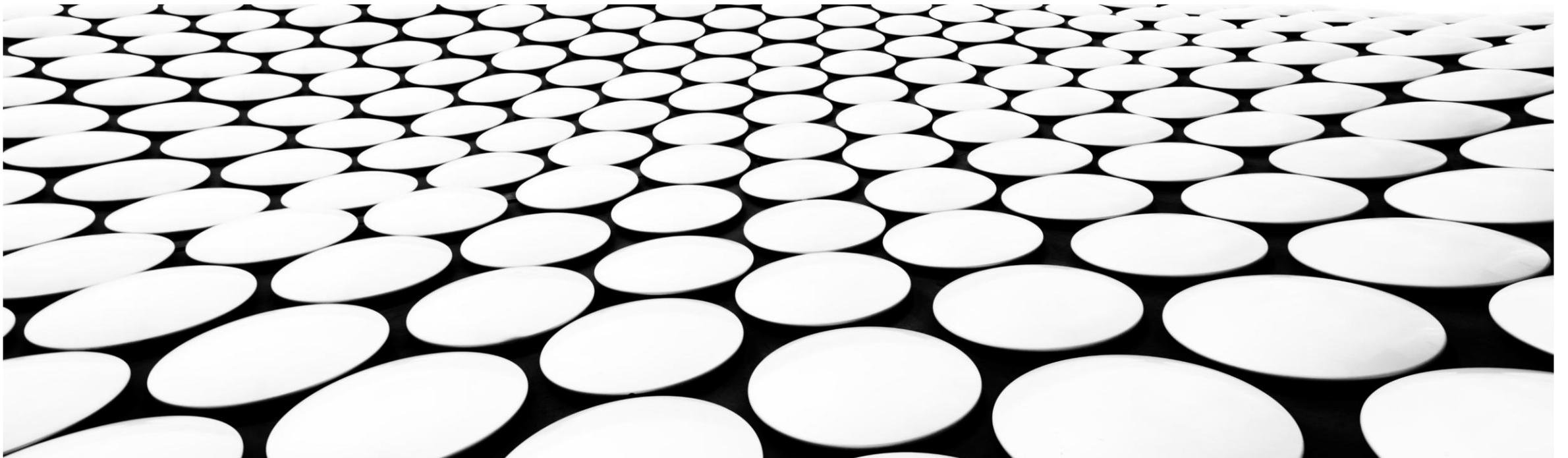


令和6（2024） 高校生の意見に対する県の回答

学校法人須賀学園宇都宮短期大学附属高校



令和6（2024）高校生ワークショップ

学校法人須賀学園宇都宮短期大学附属高校

令和6（2024）年7月6日（土）10:45～12:25

2年生28名 3年生6名 生徒34名

学校法人須賀学園宇都宮短期大学附属高校

高校生ワークショップ意見まとめ

意見に対する県の考えや取組状況、対応方針等

フィードバック

栃木県庁関係各課

総合政策部、生活文化スポーツ部、保健福祉部、環境森林部

産業労働観光部、県土整備部、危機管理防災局、県議会事務局、教育委員会事務局、警察本部

テーマ1 「どうやったら、もっと子ども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

教育

- 高校でも職業体験を行う。
- 税金を使って高校、大学まで無料にする。
- 大学を出るまでのお金の援助があるといい。日光の奨学金を受けると日光に居続ける必要があるなどの制約。
- 生活水準を底上げして上京する人を減らす。教育の質を高める必要がある。
- 大学が少ない。大学で4年すごすと、その地域の企業のほうが身近になる。
- メジャーな大学が東京にしかない。
- 校則が厳しい。時代遅れ。体育の後に制服に着替えとかめちゃくちゃ暑い。
- 行きたい学部の大学がないので都内に行ってしまう。
- 進学先(大学)で一人暮らしを始めたならそこに住み続けそう。

県の考え

- 県では、県立高校においてインターンシップ推進事業、キャリア形成支援事業、高校生未来の職業人育成事業を展開し、生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な力を身に付けることができるようキャリア教育の充実を図っています。生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身に付けさせ、地域を支え、地域に求められる人材を育成することを目指しています。
- 県立学校の校則に対しては、報道等にもあるように社会の関心が高くなっており、学校(県立学校)を取り巻く社会環境の変化や生徒の実情等を踏まえ、見直しの検討を各学校にお願いしています。生徒が当事者としてその意味を理解して自主的に校則を守るように指導していくことが重要であると考えます。

テーマ1 「どうやったら、もっと子ども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

交通

- 交通の便が良くない。
- 交通の便が悪い。田舎ほど悪くなる。年齢重ねるとさらに住みづらいから離れていってしまうのではないか。
- 新幹線を観光客の多い日光にも停まるようにする。
- 日光は車で行きづらいし、駐車場も高い。土地はあるのだからもっと駐車場を作れば良い。
- 宇都宮中心部だけでなく自転車専用レーンをもっと充実させてほしい。自転車レーンがないと危険。
- LRTをもっと広げてほしい。
- 路線を増やしてくれると嬉しいが、便利だけでそれを原因として住みたいとなるわけではない。
- 空港があるといいかも。海外に行くときなど空港が無いため不便。
- 交通網を増やす。
- もっと鉄道の本数(地方は1時間に1本しかない)を増やしてほしい。
- 田舎で交通機関、バスが少ない。交通の利便性は重要なポイントになる。
- タクシー券をもらえたりするといい。
- バス停も増やした方がいい。
- 自転車で登下校していても、横断歩道を譲ってくれない。東京だと普通に譲ってくれる。車も飛ばしたりしない。
- 東京と比べると車のマナーが悪い。事故が多い。

県の考え

- 地域の暮らしに密接にかかわる交通について、県ではこれまでも交通ネットワークの充実・強化に向け、市町や事業者とも連携しながら様々な取組を行ってきましたが、今回の高校生ワークショップを通じて、公共交通サービスの利便性の向上を求める声が大いことを改めて認識することができました。次世代を担うみなさんの意見も参考にさせていただきながら、道路・公共交通等のサービスの確保・充実に取り組んでいきます。
- 警察では、横断歩道等での横断者を妨害する違反に対する指導・取締りを強化するとともに、関係機関・団体と協力して交通安全教室や、様々なイベント、街頭広報を通じて、交通ルールの遵守や正しい交通マナーの周知を図っています。

テーマ1 「どうやったら、もっと子ども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

公共施設

- 公園が小さい。鬼怒グリーンパークなどレジャー施設を増やせば子どもがやってくる。
- 憩いの場の設置で気軽に休めるよう、歩道などにベンチを設置する。大きな公園がない。
- 雰囲気すごくいいライトキューブのようなものをほかにも作る。
- ベンチ、テーブルを設置し、休憩場所を作る。
- ゴミがないきれいな町になるといい。道の途中にゴミ箱がない。捨てる場所がないからゴミが気になる。駅前なども限定されている。ペットボトルの捨てる場所があるので、普通のごみも捨てられるところがあるといい。
- 自然が多いことは栃木県の良い点であるため、建物を増やし過ぎないことが重要。今ある老朽化した施設を撤去、リニューアルする。
- 老朽化した施設や場所の活性化。

県の考え

- 県では、栃木県総合運動公園など比較的大規模な都市公園を県内9箇所に計画的に配置しています。
- 栃木県の文化振興の中核として、”とちぎの「文化と知」を開く・つなぐ・育む拠点”として、県立美術館、図書館及び文書館を一体的に整備します。
- ゴミのないきれいな町を目指したいという気持ちを共有でき、大変嬉しく思います。ゴミ箱の設置については、利用者の利便性が向上する一方で、ゴミ箱の管理の問題や、ゴミ箱があることでかえってゴミがあふれてしまうことなどが課題となっています。県では、自治会による一斉清掃や、ゴミ拾いキャンペーンの実施などを通じて、ゴミを家に持ち帰る(自分の出したゴミに責任を持つ)啓発活動にチカラを入れています。共に美しい町づくりを目指しましょう。

テーマ1 「どうやったら、もっと子ども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

商業施設

- ショッピングモールがほしい。
- 遊べる場所が少ない。そういうのがあれば栃木県に残りたいと思う。
- みんなが集まれるテーマパークがあるといい。ディズニーランドみたいな、どの世代も遊べるような施設があるといい。シンボルみたいなもの。
- 東京にしかないお店とかもある。洋服系とか。そういうお店が栃木県にもあるといい。
- 商業施設を増やすか、今ある施設をさらに良くする。
- エンターテインメント施設が少なく、子ども達が遊べる場が限られているので、施設を増やす。
- アイドルのライブができる大規模なアリーナを。
- 栃木県に遊べる場所が少ない。東京にしかない場所があるから東京にいつてしまう。
- 若者向けにLRTのような最先端のものをつくる。県外にも誇れるような料理店をつくる。
- 栃木県にもっと遊び場所を増やして欲しい。インターパークやカラオケなど、遊ぶ場所が固定化してしまう。
- 東京のメジャーな遊び場を栃木県にもつくる。例えば渋谷のようにお店がいっぱいあるようなところだと良い。オリオン通りは物足りない。
- 都会に勝る施設がない。娯楽施設が少ない。

県の考え

- 娯楽施設の少なさや商業施設を増やしてほしいなどの要望があることが分かりました。これらを運営する企業等に対し、栃木県に進出したいと考えてもらえるよう引き続き栃木県の有意性や魅力を発信していきます。また、市町や商工団体、金融機関等の支援機関と連携を図りながら、創業から各成長段階に応じた支援の取組を推進します。
- 栃木県内での創業に向けて、創業に関する知識修得のための創業塾の開催をはじめ、相談窓口の設置や地域の課題解決に向けた創業に対する助成事業に取り組むほか、市町と連携して東京圏から移住して創業する方への支援に取り組んでいます。
- 県内のサービス産業に関わる中小企業・小規模事業者が、価値のある商品・サービス、その先にある魅力的な仕事(雇用)を地域に提供し続けることによって、地域経済の更なる好循環につながられるよう、企業の変革に向けた取組を支援していきます。
- 大規模小売店舗立地法の運用において、企業が相談しやすいよう庁内協力体制を整えています。

テーマ1 「どうやったら、もっと子ども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

情報発信

- 人をたくさん集めて実際に直接情報提供するのもあり。
- 日光は英語教育が充実していて外国人の道案内ができる人がいる。
- イベントを増やす。
- 栃木県の魅力をSNSを通じて情報提供する。
- 栃木県の強みを生かすとしたら、食べ物や自然か。餃子などアピール、アレンジしてバズらせるのも良い。
- イベントを開催し、お土産など充実させる。

県の考え

- 積極的な情報発信やイベントの開催によって、より多くの栃木県の魅力を知っていただくことが必要であると考えており、広報紙やホームページ、テレビ・ラジオ番組、LINE・X・YouTubeの県公式アカウントにより、県の取組や県内の地域資源・ブランドの魅力を県内外に発信しています。
- 近年、スマートフォン普及率やSNS利用率が年々高まっていることから、県では各種SNSでの投稿やデジタル広告配信などのデジタルマーケティングを活用した情報発信が効果的であると考え、積極的に取り組んでいるところです。
- 全国の方に栃木県の魅力や実力を知っていただくためには、県民一人ひとりが、ふるさとへの愛着と誇りを持って、自ら「栃木ファン」となって魅力を広げていくことも重要ですので、みなさんも「熱量の高い栃木ファン」として、ぜひ積極的な発信を行っていただくようお願いします。
- 県としても、引き続き、必要とされる情報を適時適切に提供できるよう、また、多くの人に栃木県に興味関心を持ってもらえるよう、工夫しながら情報発信に取り組んでいきます。

テーマ1 「どうやったら、もっと子ども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

魅力

- 栃木県のいい部分を知ろう、地元を知っている人の方ができることがあるので、地元に残ろう、とアピールすべき。
- 災害が少ないところ。海なし県だから津波などがない。
- 栃木県は標高が高いから水がキレイ。水のキレイさを利用してつなげるといい。
- 栃木県特有の魅力を増やす。
- 栃木県は保育所が利用しやすい。

県の考え

●世界遺産「日光の社寺」に代表される歴史・文化、日光・那須の雄大な山々などの豊かな自然、生産量56年連続日本一のいちごや宇都宮餃子などの「とちぎの食」は、栃木県の魅力としてみなさんもよくご存じだと思います。

それ以外にも、東京まで新幹線で最短48分など交通アクセスが充実していることや、地震・風水害など大規模な自然災害が比較的少ないなど、とても住みやすいという魅力もあります。

そういった魅力を一人でも多くの方に知っていただき、県民のみなさんが愛着と誇りを持って、「栃木県に住んで良かった、住み続けたい」と思っていただけよう、各種SNS等を活用して積極的に発信していきます。

●御意見のとおり、災害が少ないことが栃木県の大きな魅力の一つです。一方で、いざ災害が発生した際に適切な行動をとれるように皆さんの防災への意識を高めることが重要なため、県ホームページやリーフレット、LINE等を活用した情報発信や、防災を学べる動画をYouTubeで公開するなど普及啓発を行うほか、県防災館やVR防災体験車において、災害の疑似体験により災害を自分事化し、災害への備えの実践につなげられるよう取り組んでいます。

テーマ1 「どうやったら、もっとかども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

子育て

- 自分のこどもを行かせたい保育園に入れないと仕事に行けなくなってしまう。共働きとかになったとき、保育園がいっぱいあってほしい、受け入れを増やしてほしい。
- 18歳までは医療費無料を希望。

県の考え

- 県ではこれまで市町と連携し、保育所等の受入枠の拡大や保育人材の確保などの待機児童対策に取り組んできました。その結果、待機児童は解消されてきており、令和6年4月1日現在の待機児童数は0人となっています。引き続き市町と協力して、待機児童解消に努めるとともに、保育の質の確保・向上のための取組を進めていきます。
- 県では中学生までのこどもを対象に、医療費の自己負担額を市町が助成することも医療費助成制度を実施しています。
- 令和6年度現在、県内全ての市町で独自に、高校生までの医療費の助成も上乗せで行っています。

働く

- 絶対に栃木県じゃないといけないというわけではない。
- 職業に就きたいと思った時に選択肢が都会に比べると少ない。もっと選べるといい。
- 東京で美容師や調理人として活躍したい。東京に進学して就職したい。
- 働きながら生活したいと思っている。大企業に入社したいが、本社は都会に集中してるので、就職となると東京。栃木県にも有名企業があったらいいと思う。
- 将来働く時、賃金が高ければいい。東京の方が賃金高いし、制度が整っている。
- 若者は東京など大都会を知らないから漠然と憧れるのではないか。東京に出たはいいが、絶望している人を呼び戻すのも良い。

県の考え

- 栃木県にも魅力ある企業がたくさんあります。県では、より多くの方に県内企業へ就職し、活躍していただくために、合同企業説明会などの就活イベント開催や就職相談、スマートフォンアプリ等による本県企業及び就職支援イベント等の情報提供、さらには県内企業に就職した方を対象とした奨学金返還の支援など手厚いサポートを行っています。
- 県内外の若者が栃木県で優れた技術や技能を身につけ、活躍してもらえよう、専門学校等の人材育成機関への進学から就職までを一貫して支援する「とちぎ職業人材カレッジ」(愛称「とちぎジョブカレ!」)を運営しています。

テーマ1 「どうやったら、もっとかども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

生活安全

- 歩きタバコが栃木県は多く、受動喫煙の心配がある。
- 歩きタバコが迷惑。喫煙できる指定場所が少ないのでは。
- 治安が良い。
- 現在の宇都宮駅周辺やオリオン通りは治安が良いとは言えない状況にある。

県の考え

- 健康増進法において、「全ての人の義務」として望まない受動喫煙を生じさせないように配慮する義務が定められており、県では地域の関係機関と連携して望まない受動喫煙の防止等に取り組んでいるところです。
- 喫煙者の減少に向けて、健康影響についての普及啓発やたばこをやめたい人の禁煙に向けた取組を支援しています。
- 関係機関・団体と連携した広報活動や防犯パトロール等の犯罪抑止対策を推進し、県民の安全・安心の確保に努めます。
- 宇都宮駅周辺やオリオン通り等では、深夜時間帯まで酒類を提供する飲食店が増加し、それに伴い酔客が関わるケンカやトラブルが発生していることなどから、パトロールの強化、違法行為の取締りなどを行っています。

観光

- 東京と行き来がしやすいので日帰りの人が多く、滞在時間が短くなってしまふ。
- 観光地があつて観光客は来る(日光など)が、住みたいかどうか、とは関わりがない。
- 観光地を作るというのは、住みたいにはつながらないのではないか。

県の考え

- 栃木県の優れた観光資源を活かした体験型コンテンツ等の充実を図るほか、自然、文化、食等のテーマを設定したモデル周遊コースの周知等により、栃木県を訪れる観光客の滞在時間や宿泊の増に向けて取り組んでいます。
- 御意見のとおり、観光したい場所と暮らしたい場所は必ずしも一致しないことも多いと思います。一方で、観光で訪れたことがあるなど、何かしらの縁がある地域に移住される方も多いことから、魅力的な観光地を数多く有する栃木県の強みも生かしながら、栃木県への来県を促進するとともに、移住・定住促進サイトを設置するなどして、栃木県で暮らす魅力の発信を行い移住・定住に取り組んでいきます。

テーマ1 「どうやったら、もっと子ども・若者が将来も住みたくなる栃木県にできるだろう。」

その他

- 今栃木県に住みたくないとは思わない。
- 栃木県じゃなくちゃできないことが少ない。
- 日光に住んでいる。世界に誇れるものがあるから住み続けたいと思っている。
- 芸能人を栃木県に住ませる。
- 地方から都心はリターン率が少ない。
- 栃木県に戻ってきたいというイメージが大切。
- 他県にないことをすればよいと思う(高校無償化や物価や家賃を下げる、賃上げなど)。

県の考え



- 県民の皆様が栃木に誇りを持ち、住み続けたい、また戻って住んでみたいと思ってもらえることは非常に大切なことであると考えます。
このため、栃木県の素晴らしさや魅力的な情報を発信し、栃木県への移住・定住につなげていくとともに、皆様が住み慣れた地域で将来にわたって安心して住み続けられるよう日常生活に必要なサービスの確保等についても県民の皆様とともに取り組んでいきます。
- 県では、国の高等学校等就学支援金制度を活用し、一定の所得要件を満たす方に就学支援金による支援を行っています。この就学支援金の支給により、県立学校においては約8割の生徒の授業料が実質無償化となっています。財源の確保等検討が必要な課題がありますので、引き続き、支援のあり方について対応を検討していきます。

テーマ2 「年齢が上がると、結婚や子育てをするイメージが持ちにくくなるのはなぜだろう。」

経済面

- 大人になるにつれて養育費、食費など生きていくうえで大変なことを知っていくため、結婚や子育てに消極的になっていくのではないか。
- 大学の授業料、きょうだい3人目の支援のような制度がもっとあるといい。条件をもっと緩くしてもいいのではないか。
- 親に子育てはお金がかかると言われる。
- 経済的な面で不安が多く良いイメージを持ってない。大学までの学費免除など経済的支援など必要ではないか。
- 経済的に安定しないといけない。
- 前はお金とか現実的な面を見てなかった。一緒に暮らすとなったら、生活ってお金がかかる。お父さんやお母さんから話を聞く中で、子育ての費用がかかるんだと分かった。子育てはお金がかかるからマイナスなイメージがある。結婚はしても子育ての分のお金を使って自分たちは世界一周旅行に行くとかしてみたい。
- 結婚育児には多額な費用がかかってしまう。
- アルバイトとかの時給が少なく、恋愛にお金をかけられなさそう。
- 給料が相対的に下がってきていて不安。

県の考え

- 令和6年10月から、県と各市町が連携して、認定こども園等に通う第2子以降のこども(0～2歳児)について、保育料無償化を開始しました。
- 経済的な理由や家庭の事情で進学が難しい方に向けて、奨学金制度があります。奨学金には様々な種類がありますので、自分に合った制度を活用して、夢を実現する手立てとしていただきたいです。

テーマ2 「年齢が上がると、結婚や子育てをするイメージが持ちにくくなるのはなぜだろう。」

イメージ

- 勉強が忙しく、恋愛している暇がない。
- 中高生になると子育てに関する勉強をする、負担感、お金がかかるなどSNSでみる。自分の生き方が確立しているのにリスクというか不安なことをわざわざしない。
- 離婚率が増えていることを根拠に、片親の人がいると大変そうという気持ちから、さらに結婚する気がなくなってしまうのでは。
- 結婚後に必要なスキル(金銭の管理など)に自信がない。自分に対して悲観的になり、自信がなくなる。
- 人間関係が広がり、相手を深く理解できたことで恋愛に対して消極的になってしまうのではないだろうか。
- テレビの影響もあるかも。結婚って大変そうだなと思う。
- 若い頃は自分がしたいことをしているから恋愛が増えると考えられるが、社会に出ると他者の気持ちを考え尊重しようとするあまり、恋愛に消極的になってしまうのではないだろうか。
- 若い頃は理想の結婚や恋愛を想像しているため積極的だが、大人になると、男女の性格の差や金銭的問題などのデメリットが強調されやすいため、結婚や子育てに消極的になる。
- 高校生になると現実を見てしまう。離婚が多いので、大変な苦勞を知っていると夢が薄まってしまう(シングルになって預けるとこが無いと育児やこどもを持つ気持ちが薄れる)。
- ハラスメントなどもあり、男女が関わりにくい社会のため悲観的になりやすい。SNSでいろんなことを知り過ぎてしまう。
- 小学生のころは夢を見る、数年後になると自分のやりたいことも視野に入り、明確なイメージも持ちつつある。
- 高校生の頃は将来を考えることが最優先。

県の考え

- 就職、結婚、子育てなど、人生を大きく方向づける可能性が高いライフイベントについて主体的に考えられるよう講座の実施や冊子の作成などを通して、若者の自己実現の支援に取り組んでいきます。
- 日頃から学業や部活動など、多忙な生活をされている皆さんにとって、結婚や子育てについて考える余裕がないことがよく分かりました。また、様々な情報に触れている皆さんにとっては、マイナスなイメージが浮かんでくるということも分かりました。それぞれの価値観は尊重されるべきものですが、県が結婚や子育てについて、真剣に考える際の情報を発信することや、マイナスな面だけではなく、プラスの面もあるということを知ってもらうことも大切であると考えています。そのため、皆さんのご意見も踏まえ、結婚や子育てのプラスの面も知ってもらえるようなイベント等など様々な取組を検討しています。

テーマ2 「年齢が上がると、結婚や子育てをするイメージが持ちにくくなるのはなぜだろう。」

社会面

- 人口減少も関係しているのかもしれない。
- 若者が少ない。
- 高校生の時点で、3分の1は結婚や育児のイメージを持っているのだから、小、中、高で比べるのではなく、それをどう維持するかが大切だ。
- 昔は結婚相手を親に決められていたが、現在はそれぞれのパーソナリティを尊重するので昔に比べて結婚しづらい。

子育て

- 子どもができて最近子どもが危険にさらされたニュースが多く、安心して保育園などに預けられない。
- 子どもが好きだから子どもが欲しい。
- 結婚したなら子どもが欲しい。
- 早い段階で結婚して子どもも欲しい。お母さんの妹に子どもが生まれたが、すごくかわいい。子どもが好き。
- 親、家族との生活が楽しかった。
- 子どもに満足にやりたいことをやらせてあげられるのかが不安。

県の考え

- 県では、結婚や子育てについて、イメージをもっている方々がその希望を実現できるよう、結婚等のライフイベントにおける自己選択・自己決定の支援を行っていきます。具体的には、イベントの開催などを通じた多様な出会いの創出や結婚サポーターの登録促進などを通じた社会全体で結婚を希望する人を応援する気運の醸成、学校等と連携した若者への妊娠、出産、子育て等に関する正しい知識の普及啓発など、子育ての喜びを実感できる地域社会に繋がる支援を策定中の「栃木県子どもまんなか推進プラン」に盛り込み、様々な取り組みを行っていきます。

県の考え

- 保育所等については、安全計画の策定のほか、安全確保や適切な保育に関する取組の徹底が求められています。県においては、子どもや保護者が安心して保育所等を利用できるよう、危機管理や保育の質を向上させるための研修を実施しています。

テーマ2 「年齢が上がると、結婚や子育てをするイメージが持ちにくくなるのはなぜだろう。」

働く

- 家族との時間を増やしたいけど仕事をしないと生活できない。
- 死ぬまで働くつもりではいる。働くことは自分の人生の中心にはなる。
- 結婚をしても働くつもり。専業主婦になって家事を完璧にするのは難しそう。周りにいる人としがしやべれないのは孤立してしまいそうだから。
- 手に職はつけておきたい。働きながら子育てしたい。旦那さんに俺のお稼ぎだけで生活しているだろうとか言われたくない。
- 20代のうちは仕事に集中したい。
- 20代のうちはやりたいことに集中したい。コロナで好きなことが出来なかったから空白時間を取り戻したいからやりたいことが多い。
- 仕事もしたい。仕事が落ち着いてお金もたまったら結婚して家庭を築いていきたいと思う。5年くらいは付き合ってから結婚したい。

県の考え

- 仕事と結婚や子育てを両立したい人もいる一方で、まずは仕事に集中したいという人もいました。多様な価値観がある中、県で策定する「栃木県こどもまんなか推進プラン」の目標として、「誰もが希望に応じて結婚、妊娠・出産することができ、幸せな状態でこどもと向き合い、子育ての喜びを実感できる地域社会」を掲げ、皆さんの希望を後押しできるよう、取り組んでいきます。
- 「家族との時間を増やしたいけど仕事をしないと生活できない。」「働きながら子育てしたい。」など、仕事と家庭の両立に関する御意見があったことについて、県では、男性も女性も一人ひとりが望む形で仕事と家庭を両立することができるよう、家事分担や外部サービスも活用した家事時間削減などにより家事負担の軽減を目指し、みんなで家事をシェアする「とも家事」を推進しており、引き続き取組を継続していきます。
- とちぎで働く方々に魅力的な雇用の場を提供するとともに、県民誰もが仕事も家庭も大切にできる働き方が実現できるよう、働き方改革や仕事と家庭の両立支援、男性の育児休業取得促進などに加えて、働く女性の活躍を支援するための様々な施策を展開しています。

テーマ2 「年齢が上がると、結婚や子育てをするイメージが持ちにくくなるのはなぜだろう。」

コミュニケーション

- 男女の距離があり、壁がある。相手を知る機会が減り、恋愛に発展しない。
- セクハラ、パワハラなどハラスメントがすぐ起こり、男女の壁が生まれる。
- みんな奥手すぎる。
- 最近ではネガティブな人が多い。
- クラスでも男女で話をしない。連絡事項があれば話をする。
- 男女が小さい頃から関わるのが少ない。友達を作れるかどうかと男女関係は同じ。小さい頃からの環境が関わるため小さい頃から男女と関わるハードルを下げておく。
- 結局学生の頃が異性と一番一緒にいられるのではないか。
- 学生の頃に異性と過ごした経験が少ない人たちは大人になってさらに高い壁を作ってしまうのでは。

県の考え

- 異性と接する経験の少なさや、セクハラやパワハラへの懸念から、男女間の距離や壁を感じる方が多いということがわかりました。県では、男女間の交流について壁を感じる方も気軽に参加できるよう、趣味をテーマとした交流イベントを開催するなど、若者の交流の後押しにつながるような取り組みを行っています。
- 県では、子ども達が多様な他者と触れ合い、他者への思いやりの心を育みながら、自他の価値観や考え方を尊重し合う態度、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力などを身に付けられるよう、取り組みを進めています。

価値観

- 価値観が多様化している。
- 無理に結婚しなくてもいいかも。
- 自分のやりたいことを優先したい。
- 恋愛や結婚に対する優先順位が低い。
- 恋愛をしなくても満足できる。
- 趣味とかにお金をつかいたい。
- 結婚したらなにかいいことがあるのか。
- 結婚に対するマイナスなイメージはない。まだ夢を見ている段階。
- ほかにできることが多いので、それは仕方がない。
- 結婚に興味がなくなってくる。
- 結婚をすることのメリットがなくなってしまう。
- 恋愛の先に結婚と思っている。別物ではない。恋愛の先に結婚があると信じたい。その人といる将来を想像できる人と付き合いたい。

県の考え

- 十人十色の様々な価値観があることがわかりました。これらの価値観は尊重されるものであり、何かを強要されるべきではありません。しかしながら、結婚や出産には、マイナスなことばかりではなく、プラス面もあることを知ってもらい、選択肢の1つとしていただくことも、大切であると考えています。今後、結婚や子育てに関して情報発信を行う機会を増やしつつ、イベントなど様々な取組を行い、結婚や子育てのプラス面も知ってもらえるよう検討していきます。
- 就職、結婚、子育てなど、人生を大きく方向づける可能性が高いライフイベントについて主体的に考えられるよう講座の実施や冊子の作成などを通して、若者の自己実現の支援に取り組んでいきます。

テーマ2 「年齢が上がると、結婚や子育てをするイメージが持ちにくくなるのはなぜだろう。」

対策

- 大学までの学費を免除するなど、経済的な不安を除く。高校の進学を支える。教科書代などを支援する。物価高騰を支える。
- 県や学校が異性間でコミュニケーションをとることができるイベントを開いてくれるのではないかな。
- 結婚、子育ての支援を政府がやっていく。

その他

- スマホ見ている時間があれば恋愛しよう。
- 周囲であまり付き合っている人を見かけないので憧れがないかも。
- まだ結婚も子育てもイメージはそんなにないが、しなかったらしなかったで、周りの人が死んじゃった時に一人になっちゃう。どうしようと思う。
- 付き合ってもすぐに別れてしまう人もいるから、結婚って難しそう。

県の考え

- 令和6年10月から、県と各市町が連携して、認定こども園等に通う第2子以降のこども(0～2歳児)について、保育料無償化を開始しました。
- 経済的な理由や家庭の事情で進学が難しい方に向けて、奨学金制度があります。奨学金には様々な種類がありますので、自分に合った制度を活用して、夢を実現する手立てとしていただきたいです。
- 結婚支援の総合拠点であるときぎ結婚支援センターの機能強化等、結婚の希望に応える施策の更なる推進に取り組んでいきます。

県の考え

- 皆さんの周囲の状況や率直な思いを受け止めました。これらの思いを大切にしつつ、結婚や子育てについての判断材料となるような様々な知識をみなさんに持ってもらうため、県としても取組を行っています。

テーマ3 「こども・若者への意見聴取の方法」

開催方法

- 学校の授業で聞くことで、しっかり時間をとって意見聴取ができるのではないか。
- 学校の授業としてやるのがいい。クラス内で話してまとめてもらって県に伝える。紙よりは口の方が喋りやすい。
- こどもたちは質問がたくさんあったり、記号を選ぶものであったりすると、適当に終わらせてしまったり、やらなかったりしてしまう。そのため、こどもたちはアンケートや話し合いなどの場を学校側で設けてあげるべき。
- 紙とかSNSで自由募集だと真面目に回答しないかも。場を設けたら話す機会も生まれていい。Face to Faceで会話をする事で意見が出るきっかけになると思う。
- クラス単位で集まってやれば良い。新たな視点で意見も集まる。ワークショップは賛成。書くと言語化しないといけませんが、直接話した方が伝わる。小学生だとSNSとか難しいのではないか。
- 人と会話しているうちに意見が出てくる。
- こういう場の方がやりやすい。学校だからしゃべりやすい。
- 友達同士の気兼ねない人たちで議論して、そこで出た意見のすべてをぶつける。
- 直接言える場のほうがよい。今回みたいな場は良い。
- 手の作業より話すことが良い。
- 対面で話すことが良い。考えたことを文字に起こすことは大変。近い年齢層で対面でやるというと思う。
- スマホで意見聴取(多数の人が持っている、どこからでもOK)。授業時間中にやると効果的。
- 学校で質問する場を設けると多くの人に答えてもらえる。年齢など答える人に合わせた設問にしてみると充実したものになるのではないか。
- 対面も良いけど、個人の意見を求められるならネットアンケート。
- 対面も良いけど、個人のネットアンケートなども必要。どのように思うかなど答えにくいこともあるので匿名が良い。
- 学校でアンケートを実施するのが効果的。選択は曖昧なので、フリーコメントがよい。
- 話す場があっても話せない人がいる。
- 思っているのを文章にするのは難しい。文に表さないといけない。言葉遣いも気にしてしまう。

県の考え

- 意見聴取の方法については、ワークショップのような対面方式の方が、正確に意見を伝えられるという声がある一方、答えにくい質問の場合はアンケート方式を希望したり、意見を伝えにくい人への対応を求めたりする声もありました。このことから、県においては様々な意見聴取の方法を検討し、実施することを予定しています。具体的には、こどもモニターを募集し、アンケート方式による意見聴取を行う一方、好評であったワークショップについても、開催回数を増やせるよう、調整を進めていきます。

テーマ3 「こども・若者への意見聴取の方法」

その他の方法

- SNSを活用することで簡単に意見を集められる。
- SNSを活用(デメリットは小学生など持っていないので回収難しい)
- SNSを使う。学校単位のアンケート。
- SNSとかは興味が無かったら見ない。
- SNSでのアンケートはあまり適切ではない。適当にやってしまうので、こどもたちの意見を取り入れられない。
- Youtubeの広告でアンケートが出てくるように、お手頃な感じ。
- ネットでの意見箱が良い。
- 意見箱があっても書かない。書いているのが恥ずかしい。誰かに見られてるの恥ずかしい。自信をなくす原因にもなる。
- 首長などは年齢層が高いので、直接意見を伝える場を設けるのがいい。
- こども議会を活発にする。
- 市長を県民から無作為に抽出して選ぶ。
- 学校内、主婦など種類別に代表を選び、議会する。
- 年代別議会を作る。そうすることでそれぞれの年代にあった問題、課題をそれぞれで解決することができる。
- 意見の出し方はその人に合わせに行く(たくさんの方を作る)。
- 話し合い、紙で書く。
- 直接聞いてもらった方が良い人もいれば、SNSで一人で答えたい人もいる。

県の考え

- 県では、県民参加による開かれた県政の実現に向けて、県政へのご意見・ご提案をうかがう様々な広聴事業を実施し、県民の声を県政に反映させる活動を行っています。ご自身に合った方法で県政についてのご提案をお願いします。
- SNSでの意見聴取については、メリットとデメリットの両面が指摘され、視点の鋭さに驚きました。これらの意見から、SNSは誰もが使える状況になりつつあり、たくさんの情報が収集できる一方で、正確性に課題があることが分かりました。そのため、SNSを活用する場合はその特性を十分考慮した上で、意見聴取に活かしていきます。
- 県では、栃木県公式LINEアカウントを通じた「LINEアンケート」を年に数回実施しており、2,000名前後の方に回答をいただいています。
- 県では、知事にアクセス(建設的な知事へのご提案や県政へのご意見)を募集しています。お寄せいただいたご提案などは、知事や担当部局にお伝えし県政運営の参考にします。
- 県では、広く県民の皆さんの参加を募り、県内に在住、通勤、在学されている方を対象に、知事との意見交換を実施しています。
- こども議会及び年代別議会については、現時点で、県議会では実施していませんが、こども若者の意見を直接お聞きすることは重要だと考えていますので、県議会議員が高校等を訪問して生徒と意見交換を行ったり、広報紙「県議会とちぎ」等を使って、高校生世代の皆さんの声をお聞きしています。

テーマ3 「こども・若者への意見聴取の方法」

動機付け

- 任意参加だと参加しない。進学にメリットがあったら良い。
- 授業などで強制的に参加するのが良い。
- こういう場がないと参加するのも面倒くさいとなる。こういう場があると話しやすい。
- インスタなどで「とちぎの〇〇(カフェとかお店)」というような地元感があるものがあると見てしまうので、そういう感じで見せるのはありかも。
- アンケート配信はよくあるが、正直ちゃんとやっていない。めんどくさいし、真面目に答えていない。栃木県をよくしましょう、意見くださいといわれても答えない。回答者にメリットがあったほうが積極的になる。アイスやお菓子、割引券とかでも。献血とかのイメージ。
- アンケートの特典「スタバカード、Amazonギフト券、図書カード」
- アンケートをした後に、抽選とか景品とかがあればいい、お金をかけることは必要だと思う。

県の考え

- 意見を聴取する場合、何らかの特典(インセンティブ)を用意する大切さを改めて認識することができました。予算の関係上、豪華な特典を用意することは難しいですが、こどもモニター参加者に何らかの特典を用意できるよう、今後の参考にいたします。

質問方法

- 選択枠を極力なくし、自分の文章で答える形式にする。
- 一度にやる問題数を少なくする。
- 相手の年齢にあった質問作りをする。
- 選択肢じゃない方がいいのではないかな。自由記述欄についてもある程度強制的に書かせた方がいい。
- 親に対して質問を投げかけ、こどもに聞いてもらうことで率直な意見をしてもらえるのではないかな。
- いろいろな人が興味のある事柄から話を広げていくことで、たくさんの人に回答してもらうことができるのではないかな。
- 誰もが質問の意図を理解できるよう説明を加える。

県の考え

- こどもモニターでは、小学生の設問について、わかりやすい表現とすることを心がけています。
- 選択式の回答をなくし、全て記述式としてしまうと、回答率が下がってしまう恐れがあるため、全て記述式の回答とすることは難しいと考えています。一方で自由記述欄の意見も貴重であるため、こどもモニターにおいても引き続き記述回答ができるように実施していきます。

テーマ3 「こども・若者への意見聴取の方法」

フィードバック

- 自分たちの意見がどのくらい反映されているのか開示してほしい。
- 意見に対して回答が欲しい。「こんな意見が出たのでこうしました」まで欲しい。
- 自分たちの意見が伝わっている感がほしい。
- 変わったという結果、どのような意見があってどう変わったのかが知りたい。
- 意見聴取の後、どの政策に反映されているのかをわかったほうがうれしい。どうなったかを知りたい。
- 採用されなかった理由も。
- 理由も知りたい、それをもとに深掘りができる。
- 採用されたかの公開が必要。言葉で言った方がいい(お互いに意見交換になる)。このような和やかな場が必要。
- ちゃんと答えてくれるなら、意見を言いたい。なにもしないなら意味がない。
- 重要なのは一方通行のアンケートではないこと。県からのフィードバックが必要。
- 自分の意見がちゃんと反映されますよ、活用されましたよ、と分かることも大事。

県の考え

- 意見をどのように受け止めたかという、フィードバックを求める声が強かったことが非常に印象的です。ただ意見を聴くのみではなく、どのように意見を受け止めたか、どのように意見を反映したかなど、できるだけ詳細なフィードバックが求められていることに鑑み、県HPにおいて、こどもモニター等の意見のまとめとフィードバックを掲載するほか、ワークショップ実施校には、今回フィードバックを実施しています。県庁内の各所属において確実に意見を共有し、活かしていけるよう、取り組みを継続していきます。
- 県では、県民の皆様から寄せられたご提案を県政運営の参考とさせていただくとともに、回答等を県HPに掲載しています。未来を担う皆さんに「提案したい」と思ってもらえるように、引き続き丁寧な対応に努めていきます。

その他

- ファシリテーターなど、誰かがいてくれた方がいい。
- 同世代の方が本音を出しやすい。価値観が似ていたりするから。
- 今回の場合は伝わってる感があってうれしい。
- 話をきいてくれる機会があるといい。
- 共感できる時間が大切。
- 普通の働いている若者とかがいたら会社とかでワークショップをやってみたら。
- お堅い人の話はつまらないのもっと「ほんわか」いこう。
- 地域社会へコミットしたいと思うかと言えば、あまり思わない。気軽にはいえない。
- 今回は話しなれている人がいるから話が進んでいるけれども、話しなれていない人はそれも難しいから、仲がいい人がいるといいかも。

県の考え

- こどもたちの意見を引き出す存在は必須と考え、来年度実施するワークショップにおいても、ファシリテーターを確保する予定です。
- 学校単位で当面実施する想定のため、年齢の離れた方とワークショップを行うことは少ないと思われませんが、異なる価値観を共有するワークショップの意義も少なからずあると考えています。今後、実施方法を検討するにあたり、参考にいたします。
- 意見聴取について、全体として前向きな意見が多く、今後もこのように意見聴取を実施する機会を積極的に設ける必要があると改めて認識しました。